

(4) 実践の考察

A 校（1年生）の実践から

A 校の6月の授業では、学習中のルールが徹底されており、明るい雰囲気の中にもけじめのある授業が展開されていました。英語で教師と生徒がやり取りをしながら学習が進められ、ペアやグループでの学習も多く取り入れられており、全員参加型の授業づくりを目指していることがうかがえました。しかし、学級の中に人前で自己表現することを非常に苦手とする生徒が複数いることもあり、表現活動において常に配慮が必要であるという実態がありました。また、話を理解しながら聞く、ということが難しい生徒がいることや、学習内容がなかなか定着しない生徒が少なくないことに対して、どのような手立てを取るかについて考える必要がありました。

このような生徒の実態を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善につながる手立てとして、研究委員の先生が下記のアからウを実践しました。

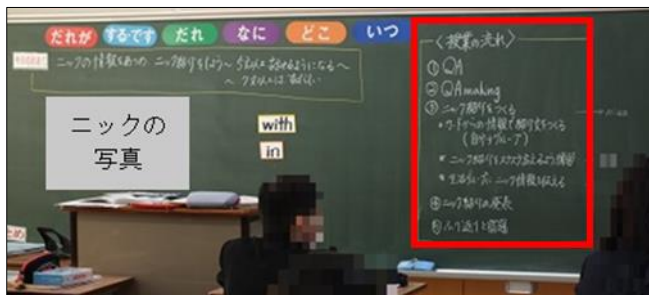
ア 学習の見通しを持たせる手立て

【手立て】 単元ゴールや学習の流れの提示と学習活動の振り返りで、学習の成果を自覚させる。

【主-H・J・V】

学習に対する意識を高めさせることをねらいとし、単元ゴールや学習内容をリストにして提示し、個々の生徒に学習到達目標を立てさせました。リストには、授業ごとに学習活動について振り返ることができるように、自己評価の欄を設けました。また、本時のめあてとともに学習内容を時系列で具体的に板書しました（資料1赤枠）。授業のまとめで具体的に自己評価を行わせ、生徒が自分の学習達成状況を把握するとともに、今後の学習活動において意識すべきことについて気付くことができるようにしました（資料2、3）。

単元ゴールの活動や授業の流れを可視化したことで、何をしたいのか分からないという生徒はいなくなり、自分で考えて動く姿が見られるようになりました。



資料1 授業の流れを示した板書

ニック紹介活動のまとめ 今日の授業の振り返りをしましょう！			
①ペアで先生のところに何回きましたか？	3点 (3回以上)	2点 (2回)	1点 (1回)
②ニック紹介を何文いえるようになりましたか？	3点 (5文以上)	2点 (4~3文)	1点 (1~2文)
③自分の立てた目標を達せることができたか？	3点 (よくできた)	2点 (できた)	1点 (努力必至)
今日のあなたの合計点数は？	合計 () 点 / 9点満点中		
今日の自分の成長を記録しよう！(どんなことができるようになったかな？)			

資料2 振り返りシート

自分のスピーチをチェックしてみよう！ H29.11.2		
1	相手に伝わる声で発表ができています	Good 99-99 bad
2	相手が分かるような速さで話すことができています	Good 99-99 bad
3	相手の目を見て話すことができています	Good 99-99 bad
4	身振り手振りを使って発表することができています	Good 99-99 bad
5	一文伝え終わったら、時間をおき、伝えることができています	Good 99-99 bad
6	英語らしい発音になるように気をつけて話ができている	Good 99-99 bad
7	○スピーチをする際に、どんなことに気をつければ、相手に伝わりやすいスピーチになると思いますか？	
()年()組()号 名前()		

資料3 スピーチ自己評価シート

イ ペアやグループでの学習を充実させる手立て

〔手立て〕 話し合いや協働学習のやり方を明示し、協力して解決する必然性がある学習課題を設定する。〔主-N、対-E・F・J・L〕

共に学び伸びる環境づくりを行うことで、様々な学習到達度にある生徒が安心して学習することができ、切磋琢磨しながら力を付けていくことができると考え、日々の授業においてペアやグループでの活動を数多く設定しました。生徒にとって学習しやすい環境をつくるために、ペアやグループでの学習におけるルールを示し、ペアやグループを作る際には個々の生徒の学習到達状況などに配慮しました。また、インフォメーション・ギャップがあり、相手の発話をよく聞いて解決しなければならないような学習課題を設定することで、聞く必然性を持たせたり、学習意欲を喚起したりすることを目指しました。

情報をやり取りしながら解決する課題を設定したことで、相手意識や協働意識が生まれ、学び合いにも大きな効果があることが分かりました。生徒同士で気軽にアイデアを出し合ったり、作品を修正し合ったり評価し合ったりする時間を設定していくことで、個々の生徒が思考する機会が増え、学習内容を深く理解することにつながるということが分かりました。



資料4 ペアで Q&A Making 活動に取り組む様子



資料5 メモを頼りに人に説明する活動を行う様子

ウ 英語で表現することに慣れさせる手立て

〔手立て〕 既習の知識や技能を活用させる活動を段階的に継続して行う。

〔主-A・B・N・S、深-E・G〕

実際のコミュニケーションに必要な力を育成するためには、意味のある文脈でのコミュニケーションにおいて、語彙・表現に繰り返し出会い、実際に使う体験を積み重ねていくことが必要だと考えます。そこで、授業においても英語を使う必然性がある単元ゴールの活動を設定し、生徒が学んだことを様々な場面設定において繰り返し活用したり、既知の情報と関連させて理解したりする活動に取り組みせました。また、技能習得の偏りがなく、複数の技能を組み合わせる活動を設定しました。

取組を継続していくことで、生徒の学習に対する意識に変容が見られました。人前で自己表現をすることが大変苦手な生徒 A が、1つ1つの課題をやり遂げてきた結果、「英語で発表ができるようになって良かった」という感想を記述していました(資料6)。ペアでの学習で、なかなか声を出すことができなかった生徒 B も、クラスメートの前で発表することができるようになり、自信を付け、表情が柔らかくなってきました。日々の授業実践の中で、英語で自己表現する体験を少しずつ積み重ねさせながら、抵抗感を減らすことができたと考えます。

- ・英語で発表ができるようになって良かった。
- ・最初は、うまく英語を話すことができなかったし、声も小さかったけど、今はだいぶすらすら言えるようになったし、人前でも言えるようになったのでうれしいです。
- ・授業では、話を聞いたり、話したりして伝えることができたので良かった。
- ・英語が苦手だったけど大好きになった。(原文ママ)

資料6 生徒の感想

B 校（2 年生）の実践から

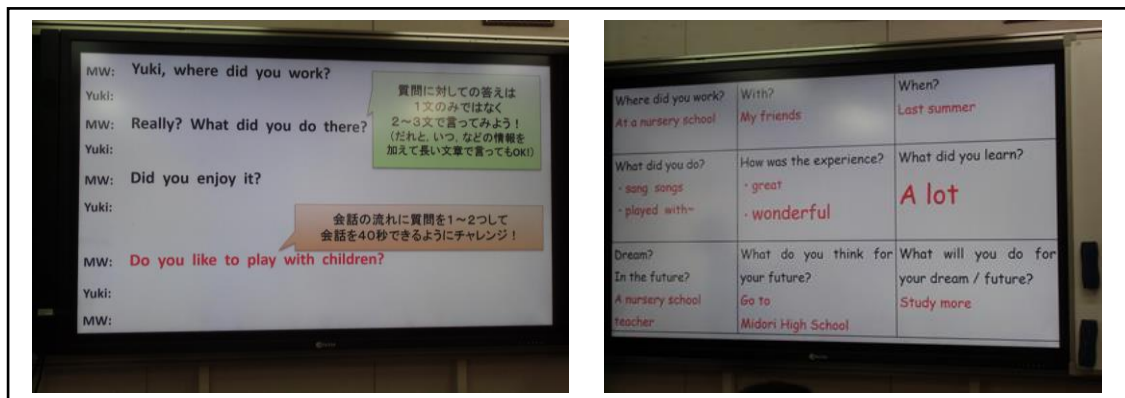
B 校の 6 月の授業では、学習中のルールが徹底されており、英語でテンポよく授業が進められる中、落ち着いた雰囲気生徒がまじめに各学習活動に取り組んでいる様子が見られました。しかし、1 人 1 人の生徒に目を向けてみると、集中して話を聞くことが苦手で、内容を正確に理解できないまま何となく活動している生徒がいることや、表現活動において提示したモデルのまねで終わってしまう生徒が少なくないなど、英語でのコミュニケーションに必要な資質・能力を育てるために解決したい課題が浮かび上がってきました。また、10 月に行った授業実践の振り返りでは、まじめに学習しているにもかかわらず、なかなか学習の成果が出ない生徒がいること、特に、「正確に書く」という点で学力の二極化が進んでいることが課題として挙げられました。

このような生徒の実態には、下記の **ア** から **ウ** のような取組の不足が一因にあるのではないかと考え、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に向けた手立てを実践しました。

ア 情報の与え方や、内容をよく聞いて理解させるための手立て

[手立て] 活動の指示や学習手順の説明などは可視化して分かりやすく示す。[主—E・R]

実演やプレゼンテーションソフトを用いた説明（資料 7）を行い、生徒が聞こえてくる情報を視覚的にも捉えることができ、内容をイメージしやすいようにして、理解を助けるようにしました。その結果、何をしたらよいか分からず、活動に取り掛かることができない生徒はいなくなり、スムーズに活動をスタートさせることができるようになりました。



資料 7 学習活動手順や目的を提示したスライド

イ 生徒に思考させ、自分で考えたことを試行錯誤しながら表現させる手立て

[手立て] これまでに身に付けた力を使って、自分で考えて表現する必然性がある課題に多く取り組ませる。[主—N・O、深—G]

帯学習で行っていたペアトークの自由度を上げ、既有的知識を活用して即興でコミュニケーションを図る体験を数多くさせることとしました。生徒にとって難易度の高い取組になると思われましたが、初めは戸惑っていた生徒も、回数を重ねるごとに英文を作り出すことに慣れ、適切な表現を探すために自主的に教科書やファイルを活用したり、辞書を用いたりするようになりました。10 月に行ったアンケートでは、87%の生徒がクラスメートと英語で話をするについて「好き」又は「まあまあ好き」と回答しており、英語で伝え合うことに楽しさや喜びを感じていることがうかがえました。1 年次よりペアでの学習を頻繁に行ってきたことで、安心して表現活動ができる環境が整っていたことも、活動がうまく進んだ要因と考えます。今後、話すことについての見取りや、語彙力をどのように高めるかなどの課題はありますが、それまでに学んできたことをアウトプットすること

で、生徒は「何を話そうかな」、「これでいいのかな」、「どう言ったらいいのかな」などと考えることになり、実際のコミュニケーションで起こりうる体験を積み重ねることができるのではないかと考察します。場面設定やレベルなどを工夫しながらこの取組を継続していくことは、実際のコミュニケーションに必要な資質・能力の育成に効果があると考えます。

ウ 学習に見通しを持って取り組ませる手立て

[手立て] 単元ゴールを教師と生徒が共有し、ゴールの達成に向けて各学習活動に目的を持って取り組ませる。[主-E・H・I]

生徒がより明確な目的や目標を持って学習に取り組めば、学習効果が上がることが期待できると考え、文化発表会において英語による職場体験の発表ややり取りを行うというパフォーマンス課題を設定し、単元の初めに生徒とを共有しました。活動内容がイメージしやすいように、プレゼンテーションソフトやワークシートを工夫しました(資料8)。その後の授業においても、単元ゴールの達成につながる技能統合型の言語活動を仕組み、繰り返し単元ゴールを意識させることができるような声掛けを行いました。

①メモをもとにして、40秒程度の会話やスピーチができるようになろう！【文化発表会劇予定】

②不定詞(to+動詞の原形)を使って職場体験や将来の夢について語ろう。

③職場体験や将来の夢を体験記にまとめよう！【文化発表会展示予定】

劇の中に登場し、ステージ上で英語の会話インタビュー！

教科書挿絵(キャラクターが発表している様子)

劇の中に登場し、ステージ上で英語スピーチ！

会話もしくはスピーチが、劇の中に映像で登場！

劇の中に登場し、ステージ上で英語の会話！

8~10文程度の英語で「職場体験や将来の夢について書く」写真またはイラスト

ひとり作品

振り廻りフタさん シート

○単元名: PROGRAM6 A Work Experience Program
~POWER-UP⑤Listening&Writingインタビュー記事を書く【単元計画・自己評価表】

○単元目標 Class() No. () Name()

①メモをもとにして、40秒程度の会話やスピーチができるようになろう！【文化発表会劇予定】
②不定詞(to+動詞の原形)を使って職場体験や将来の夢について語ろう。
③職場体験や将来の夢を体験記にまとめよう！【文化発表会展示予定】

◎学習計画(全11時間 学習の見通しをもとう) 帯学習: Mini Mini Talk

時	学習内容・目標	自己評価
1	★PROGRAM6 ①文法(教科書 p52-53) 不定詞(to+動詞の原形) 文法 職場体験や将来の夢について書く。学習の見通しをもとう！ ①「-する」の不定詞(to+動詞の原形)の使い方がわかる。 ②「want to-」「like to-」を使って自分の気持ちを言うことができる。	Sorry... So-so Good!!
2	★PROGRAM6 ①文法・本文(教科書 p52-53) ①単語を正しく発音することができる。 ②本文の内容を正しく読み取り、質問に答えることができる。 ③本文をまねて、職場体験について質問したり応答したりできる。	Sorry... So-so Good!!
3	★PROGRAM6 ②文法(教科書 p54-55) 不定詞(to+動詞の原形) 文法 ①「-する」の不定詞(to+動詞の原形)の使い方がわかる。 ②不定詞(to+動詞の原形)を使って行動の目的を言うことができる。 ③単語を正しく発音することができる。	Sorry... So-so Good!!
4	★PROGRAM6 ②文法・本文(教科書 p54-55) ①p52,54 Listen(聞き取り)正しく聞き取ることができる。 ②本文の内容を正しく読み取り、質問に答えることができる。 ③本文をまねて、職場体験について質問したり応答したりできる。	Sorry... So-so Good!!
5	★PROGRAM6 ①②本文(教科書 p52-55) ①①②の本文をまねて、職場体験について質問したり応答したりできる。 ②会話に必要なメモを作成できる。 ③メモをもとにして、職場体験や将来の夢について簡単に会話できる。 【書き出しのミニミニトークを振り返ろう！】	Sorry... So-so Good!!
6	★PROGRAM6 ③文法(教科書 p56-57) 不定詞(to+動詞の原形) 文法 ①「-する」の不定詞(to+動詞の原形)の使い方がわかる。 ②不定詞の原形がより正確に書けるようになる。【書き出しのミニミニトークを振り返ろう！】 ③単語を正しく発音することができる。	Sorry... So-so Good!!
7	★PROGRAM6 ③文法・本文(教科書 p56-57) ①本文の内容を正しく読み取り、質問に答えることができる。 ②P56①～③の英文を正しく書けることができる。 ③メモをもとにして、職場体験や将来の夢について簡単にスピーチできる。	Sorry... So-so Good!!
8	★POWER-UP⑤ インタビュー記事の書き方(教科書 p58-59) ①挿絵やメモをもとに職場体験や将来の夢についての会話やスピーチができる。 ②職場体験の経緯について英文上の英文を書くことができる。(体験記)	Sorry... So-so Good!!
9	★PROGRAM6-POWER-UP⑤ (体験記完成系) (教科書 p52-59) 体験記を完成させよう！ ①体験記を完成させる。 ②正しい体験記を読んで、簡単にコメントすることができる。	Sorry... So-so Good!!
11	★PROGRAM6 単元テスト(教科書 p50-59) 課題: PW③テストワード④ ~PW⑤職場体験 ~PW⑥インタビュー記事 PW③-PW⑥の単元テストでその確認しよう！ ①学習のまとめよう！	Sorry... So-so Good!!

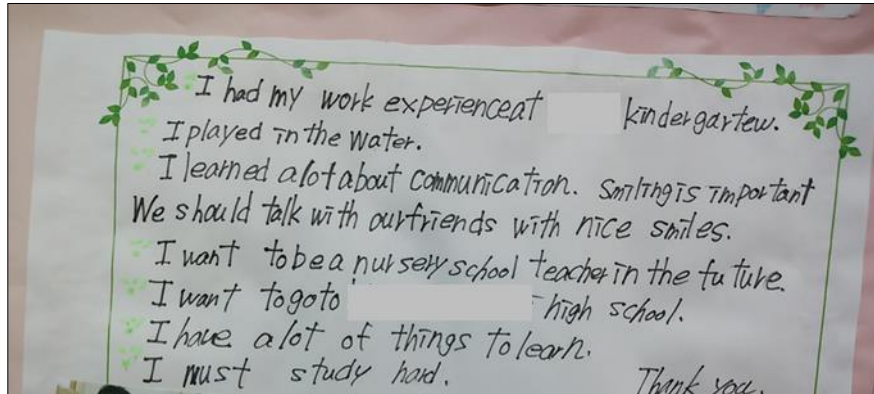
※単元学習の振り返り

資料8 単元ゴールの提示スライド・ワークシート

この取組を通し、生徒の学習に対する姿勢に、より積極性が見られるようになりました。また、定期的に行っている単元テストの結果において、学級平均が他の単元のものより4から8ポイント程度高くなり、多くの生徒が基本表現を含む英文を正確に書くことができていました。生徒に単元ゴールの活動を示したことで、生徒は本番の姿をイメージし、明確な学習到達目標を持つことができました。そのことが、生徒の学習意欲を引き出し、学習量の増加につながったと考えます。また、帯学習において即興で話すことに慣れさせたことや、段階を踏んでメモの作成、やり取りと発表の練習に取り組ませたことが、学習内容の定着につながったと考察します。

文化発表会におけるパフォーマンスに向けた努力と当日の成功は、生徒に自信を持たせることにつながりました。事後に発表内容を書く活動（資料 9）に取り組ませたところ、英語を苦手とする生徒にも積極的に書こうとする姿が見られました。

このことから、学習に見通しを持たせることや、自分の現在の学習到達状況を自覚させること、また、資質・能力の向上に向けた改善策を生徒と教師と一緒に考える場を設定することは、生徒の学習意欲を引き出し、主体性の育成につながると推察します。



資料 9 生徒作品（職場体験レポート）

両校の取組を通して

- 学習到達目標や学習活動の目的を明確に示し、学習到達状況を随時自覚させることは、学習意欲の向上につながり、次の学習への展望を持たせるために大切であることが分かりました。その際、①資質・能力別に具体的な振り返りの視点を持たせること、②習得した知識や技能を実際に活用させる課題に取り組ませたり、理解したことを人に説明させたりすることは、自己の変容や今後の改善点を自覚させる上で効果がありました。
- 「話すこと」における学習到達状況の確認をするために、動画や音声記録をどのように生かしていくのかということが今後の課題として挙げられます。タブレットなどの機器を活用した動画記録を基に、自己評価やペアでの相互評価をすることで、「何ができて、何ができていなかったか」という具体レベルでの振り返りができるようになると考察します。動画や音声記録を用いた学習到達状況の確認を、学習のまとめや振り返りの過程で行うだけでなく、学習の見通しを立てる場面や、言語活動を進める過程においても行うことで、生徒の資質・能力の育成に効果があると考えます。